

# 奥三界岳

2017.10.8（日、晴れ）単独

奥三界岳（1811M）は信州百名山の「付属の12座」の山（小秀山の付属として）、私は付属の山について知らなかったのので、登っていなかった数座を登り残った最後の山がこの奥三界岳である。これで正真正銘信州百名山の完登達成となった。

当初は七倉～船窪小屋（泊）蓮華岳～針の木小屋～扇沢の予定だったが小屋が10/9までで3連休で混みそうなので来年の蓮華岳のコマクサの時期に延期して当初予定は10月の中・下旬の紅葉期に予定していた奥三界岳に変更した。

日本三百名山・ぎふ百山にも指定されている山である。何故か奥三界山と奥三界岳と二通りの山名表示がされている。（山と岳の違い）今回の山行でも途中の案内板は二通りの表示がされていた。古い案内板は「山」で、新しい看板は「岳」になっていた。三界山（岳）の奥にある事から命名されたようだ。往復7:20、距離が18KMと健脚向きの山である。そんな事で前泊早立ちの登山になった。

10/7（土）自宅8:00～（梓川SAスマートIC～飯田山本IC間は高速利用）

9:48 阿智村の満蒙開拓平和記念館見学 12:20～長岳寺見物・昼神温泉で入浴・南木曾経由～14:40 道の駅きりら坂下で車中泊（丁度お祭りで夜花火見物も出来た、以上はブログに掲載しました。）

10/8（日、晴れ）5：20～5：45 夕森公園奥のP 6：00～7：25 丸野林道  
～8：05 昇竜ノ滝登山道入り口 8：10～8：35 小屋～10：05 山頂（昼）  
11：05～12：40 小屋 12：45～13：00 丸野林道～13：45 林道分岐  
13：55～14：30 一つ滝分岐～（アゼ滝・一つ滝見物）15：00～15：10  
川上林道～15：30 P 15：40～（国道19号線経由、上松町のねざめホテル  
で入浴、塩尻北IC～安曇野IC間高速利用）19：20 帰宅（総走行距離  
323KM）

夕森公園奥のゲート前駐車場には車無、カウベル鳴らして川上林道を歩き始める。

登山口ゲート



銅穴の滝



竜神ノ滝、銅穴ノ滝を見ながら橋を渡って木曾五木ばい樹林帯を登る。大きくジグを切って登山道がつけられている。大きなひのき？の伐採跡が何本も残っている。丸野林道に出た、立派な林道を歩く、恵那山が大きくそびえている。

丸野林道を滝の手前で左折



小屋から急登



恵那山が大きい



昇竜ノ滝手前に奥三界岳入り口の看板があるので左折する。車道（森林軌道跡）だったようだが崩落等で昔の名残はほとんど感じない幅の狭い道で時々コンクリート舗装が残っているので車道だった事が分る程度のひどい道だ。前日雨が降ったようで生い茂る熊笹でびっしょり濡れてしまった。営林署の小屋に着いた。使われていないので荒れ放題で雨風も防いでいない状況。湿っぽい足元の登山道が多く、靴もビショビショになってきた。

沢を登る



沢を登って又湿っぽい薄暗い陰気な登山道を登る。嫌気がさした頃やっと山頂着、古ぼけたヤグラがある。天気予報が外れてガスで全く展望が効かない。小秀山や御嶽山が目の前に見られるはずであったが残念だ。早昼食べて大休止するが誰も登って来ない。苦勞が多くてつまらない山だが、三百名山・ぎふ百山なのに本当に嫌われ物の山のようにだ。初期

は残雪、夏は暑くて、秋のみ登山適期の山なのに好天予報の日曜日でも誰も登って来ない淋しい山だ。百円ショップで購入した三脚で記念撮影して下山する。

山頂のやぐら



山頂で



靴とズボンが濡れていて不快、歩き始めて15分下った所で単独行が登って来た。沢を下った時に足元に気を取られてリボンを見落としてしまい行き過ぎてしまう。往路歩いた記憶の無い沢の感じで道間違いと思い引き返す。案の定

200Mほど沢を登った所に樹林帯への分岐のリボンがあった。沢下りは注意が必要だ。登下山中もこの山は山頂がハッキリしない山である、ますますつまらなく感じる山だ。距離も長い山（18KM, 日帰り登山では今まで南アルプスの池口岳が 17KMで一番距離があったと記憶しているが）で疲れてきた。一つ滝・アゼ滝の分岐でどうするか思案したが折角なので寄る事にするが所要時間が分からずで悩んだが。所が橋やはしごの木が腐っているし、結構足場が悪い所がある。アゼ滝に寄り、一つ滝へ向かうがこれも木が腐っていて吊橋の手前に後15分と書かれていたので引き返す事にした。疲れていて危険なので。

アゼ滝への道は悪い



それにしてもこんな足場の状況で観光協会是一般ハイカーも対象なのか？連休でもあり、銅穴ノ滝までは観光客が数組訪れていた。竜神ノ滝を過ぎた舗装道路上になんと「マムシ」が長くなっていた。

マムシ



野生で見るのは20数年振りで良く観察したが、登山中に合わなくて良かった。下山後早く入浴・着替えをしたかったが、近くには温泉が見当たらず上松町までお預けになった。久しぶりの木曾街道は空いていて懐かしくもあったが、時間的に暗くなり、道の駅も閉店で何処へも寄らずに通り過ぎた。街道端に「上松宿」「檜川宿」等各宿場毎に独特の掲示があった。昨日通った昼神温泉～19号線間の256号線の清内路トンネル近辺にも木曾地方の林業を誇るように各橋の前後には「ひのき橋」「あすなろ橋」「ねずこ橋」等大きな原木に書かれて建っていたが、車で走っている者にとってこんなアイデアや発想や気配りは嬉しい。

赤沼 健治